

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年11月14日
【四半期会計期間】	第49期第3四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	不二精機株式会社
【英訳名】	FUJI SEIKI CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 伊井 剛
【本店の所在の場所】	大阪市生野区巽東四丁目4番37号
【電話番号】	06(4306)6820(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 山本 幸司
【最寄りの連絡場所】	大阪市生野区巽東四丁目4番37号
【電話番号】	06(4306)6820(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 山本 幸司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第48期 第3四半期連結 累計期間	第49期 第3四半期連結 累計期間	第48期
会計期間	自平成24年 1月1日 至平成24年 9月30日	自平成25年 1月1日 至平成25年 9月30日	自平成24年 1月1日 至平成24年 12月31日
売上高(千円)	3,363,553	3,391,238	4,449,316
経常損失( )(千円)	169,310	2,486	42,402
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失( )(千円)	198,136	8,461	227,865
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	179,049	359,615	371,771
純資産額(千円)	231,484	1,235,176	779,383
総資産額(千円)	5,587,128	6,159,735	5,651,810
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損失 金額( )(円)	29.10	1.18	33.46
潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益金額(円)	-	1.17	-
自己資本比率(%)	4.1	20.0	13.8

回次	第48期 第3四半期連結 会計期間	第49期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日	自平成25年 7月1日 至平成25年 9月30日
1株当たり四半期純損失金額 ( )(円)	12.44	5.66

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第48期については潜在株式が存在しないため、第48期第3四半期連結累計期間については、1株当たり四半期純損失金額であり、また潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(連結子会社)平成24年10月に、精密成形品その他事業、射出成形用精密金型及び成形システム事業を主たる事業とする、PT.FUJI SEIKI INDONESIAをインドネシア共和国において新規設立しましたが、重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

この結果、平成25年9月30日現在、当社グループは、当社及び連結子会社5社により構成されることになりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

当第3四半期連結累計期間において、新たに次に記載のリスクが発生しております。

(潜在株式の行使による当社株式価値の希薄化について)

当社は平成25年4月19日開催の当社取締役会決議に基づき、マイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社を割当先とする第三者割当による新株予約権証券の発行をいたしました。当該新株予約権がすべて行使された場合に発行される当社株式の総数は1,700,000株であり、発行済株式総数の20.5%に相当し、当該新株予約権が行使された場合には1株当たりの株式価値は希薄化する可能性があります。さらに、潜在株式の行使により取得した株式が市場で売却された場合は、需給バランスに変動が生じ、適正な株価形成に影響を及ぼす可能性があります。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成24年末に発足した新政権による経済政策のもと、景気回復の兆しはあるものの、欧州での金融不安が依然続いていることや中国経済の成長鈍化による世界経済の減速もあり、経営環境は引き続き厳しいものとなっております。

このような環境の中、当社グループは、中期スロ・ガンとして「安心をお届けする不二精機グループ」を掲げ、品質管理体制の徹底強化によるグループ一体となった顧客満足の更なる追求を図り、精密金型のコア技術をもとに自動車及び二輪車などの成形事業分野への積極的な展開を行い、顧客への高付加価値製品の提供による安定受注の拡大に努めてまいりました。

また、「『考動』で価値を創る」をグループ全社員の行動規範とし、「お客様の利益の最大化」を目標に、新たな価値創造、また「見える化」をはじめとする日々の業務の改善活動に取り組んでおります。

このような結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期比27百万円（0.8%）増の33億91百万円となりました。

損益につきましては、射出成形用精密金型及び成形システム事業における売上高減少及び原価率が悪化したことなどにより、営業損失1億2百万円（前年同四半期は営業損失79百万円）、為替差益が発生したことなどにより、経常損失2百万円（前年同四半期は経常損失1億69百万円）、四半期純利益8百万円（前年同四半期は四半期純損失1億98百万円）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### <射出成形用精密金型及び成形システム事業>

光学機器用精密金型及び医療機器用精密金型が減少したことなどにより、当セグメントの売上高は、14億14百万円（前年同四半期比2.8%減）となり、営業損失1億45百万円（前年同四半期は営業損失75百万円）となりました。

#### <精密成形品その他事業>

自動車部品用成形品等が増加したことなどにより、当セグメントの売上高は、19億76百万円（前年同四半期比3.6%増）となり、営業利益57百万円（前年同四半期比217.5%増）となりました。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

#### (3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は5百万円であります。なお、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,720,000
計	23,720,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,304,000	8,554,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	8,304,000	8,554,000	-	-

(注) 提出日現在発行数欄には、平成25年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年7月1日~ 平成25年9月30日	350,000	8,304,000	17,621	996,420	17,621	47,828

(注) 1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 平成25年10月1日から平成25年10月31日までの間の新株予約権の行使により、株式数は250,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ12,586千円増加しております。

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 544,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,409,100	74,091	-
単元未満株式	普通株式 700	-	-
発行済株式総数	7,954,000	-	-
総株主の議決権	-	74,091	-

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
不二精機株式会社	大阪市生野区巽東4丁目4番37号	544,200	-	544,200	6.84
計	-	544,200	-	544,200	6.84

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,088,631	970,369
受取手形及び売掛金	988,189	896,460
製品	239,664	274,334
仕掛品	304,009	369,181
原材料及び貯蔵品	93,462	102,599
未収入金	282,235	252,142
繰延税金資産	36,586	41,382
その他	84,806	88,205
貸倒引当金	4,680	4,000
流動資産合計	3,112,905	2,990,676
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	701,594	1,029,306
機械装置及び運搬具(純額)	783,802	687,277
土地	525,155	544,995
リース資産(純額)	22,172	82,628
建設仮勘定	283,996	225,530
その他(純額)	91,536	186,791
有形固定資産合計	2,408,257	2,756,528
無形固定資産	19,905	74,055
投資その他の資産		
投資有価証券	47,262	60,729
長期貸付金	4,000	-
繰延税金資産	5,327	6,414
その他	38,730	152,979
貸倒引当金	20	-
投資その他の資産合計	95,299	220,123
固定資産合計	2,523,462	3,050,707
繰延資産		
社債発行費	15,442	16,551
開業費	-	98,482
株式交付費	-	3,317
繰延資産合計	15,442	118,351
資産合計	5,651,810	6,159,735

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	549,258	546,671
短期借入金	1,738,267	2,021,021
1年内償還予定の社債	88,480	102,480
リース債務	5,675	19,490
未払金	176,892	145,507
未払法人税等	10,752	8,438
賞与引当金	60,201	94,394
製品保証引当金	20,661	21,382
その他	134,142	194,247
流動負債合計	2,784,331	3,153,632
<b>固定負債</b>		
社債	500,800	498,320
長期借入金	1,499,177	1,141,604
長期未払金	8,083	96
リース債務	17,606	66,632
繰延税金負債	31,160	29,477
退職給付引当金	2,279	2,137
役員退職慰労引当金	14,539	14,539
資産除去債務	14,449	18,119
固定負債合計	2,088,095	1,770,926
負債合計	4,872,427	4,924,559
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	948,592	996,420
資本剰余金	139,280	187,109
利益剰余金	35,815	44,276
自己株式	261,849	261,849
株主資本合計	861,839	965,958
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	2,381	4,941
繰延ヘッジ損益	301	806
為替換算調整勘定	84,535	264,564
その他の包括利益累計額合計	82,455	268,698
新株予約権	-	519
純資産合計	779,383	1,235,176
負債純資産合計	5,651,810	6,159,735

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
売上高	3,363,553	3,391,238
売上原価	2,793,211	2,885,506
売上総利益	570,342	505,732
販売費及び一般管理費	649,820	608,205
営業損失( )	79,477	102,473
営業外収益		
受取利息	1,192	1,350
受取配当金	118	423
為替差益	-	165,502
仕入割引	813	869
補助金収入	5,152	1,500
その他	14,927	4,762
営業外収益合計	22,204	174,408
営業外費用		
支払利息	64,759	50,071
為替差損	33,700	-
社債発行費償却	2,015	2,750
その他	11,561	21,598
営業外費用合計	112,036	74,421
経常損失( )	169,310	2,486
特別利益		
固定資産売却益	1,353	10,848
受取保険金	314,324	10,885
投資有価証券売却益	-	950
特別利益合計	315,677	22,683
特別損失		
固定資産売却損	2,799	1,162
固定資産除却損	1,547	1,867
災害による損失	356,662	-
特別損失合計	361,009	3,029
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	214,641	17,167
法人税、住民税及び事業税	5,804	14,186
法人税等調整額	22,309	5,480
法人税等合計	16,504	8,706
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	198,136	8,461
四半期純利益又は四半期純損失( )	198,136	8,461

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	198,136	8,461
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	2,559
繰延ヘッジ損益	1,104	504
為替換算調整勘定	20,194	349,100
その他の包括利益合計	19,087	351,154
四半期包括利益	179,049	359,615
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	179,049	359,615
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、PT.FUJI SEIKI INDONESIAは重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社は有形固定資産の減価償却方法について従来より主として定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法へと変更しております。

当社では昨年10月に設立したPT.FUJI SEIKI INDONESIAの操業開始を控え、有形固定資産の減価償却方法について見直しを行った結果、以下の理由より定額法を採用し、耐用年数にわたり均等に費用配分することで、使用実態をより適切に反映できると判断したため、従来の償却方法を見直し、定額法を採用することといたしました。

(1) 国内では以前のようなディスクケース等の生産設備の大量受注が減少し、従来のように比較的早期に設備投資額の回収につながる状況から、医療・自動車といった高付加価値品を中心とした事業体制に移行することによって、生産設備の安定的な長期稼働が見込める状況へと移行しているため、減価償却方法を定率法から定額法へ変更することが、経営の実態をより適切に反映すると判断いたしました。

(2) 在外子会社については従来より主として定額法を採用しており、グループ一体でより効率的かつ効果的に経営資源を配分し、グローバルな研究開発・生産体制の構築及び維持管理を行うためグループ全体の会計方針を定額法に統一することが必要であると考えております。

この変更により、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間の営業損失及び経常損失はそれぞれ15,820千円減少し、税金等調整前四半期純利益は15,820千円増加しております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)
減価償却費	195,104千円	204,495千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成25年5月7日付で、マイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社に新株予約権の割当を実施いたしました。この新株予約権の行使の結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が47,828千円、資本準備金が47,828千円それぞれ増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金996,420千円、資本準備金47,828千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	射出成形用精密金型 及び成形システム事業	精密成形品その他事業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,455,606	1,907,946	3,363,553
セグメント間の内部売上高 又は振替高	15,360	-	15,360
計	1,470,966	1,907,946	3,378,913
セグメント利益又は損失( )	75,821	18,193	57,628

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	57,628
セグメント間取引消去	21,849
四半期連結損益計算書の営業損失( )	79,477

当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	射出成形用精密金型 及び成形システム事業	精密成形品その他事業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,414,765	1,976,473	3,391,238
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	1,414,765	1,976,473	3,391,238
セグメント利益又は損失( )	145,491	57,767	87,724

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	87,724
セグメント間取引消去	14,749
四半期連結損益計算書の営業損失( )	102,473

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額( )	29円10銭	1円18銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額( ) (千円)	198,136	8,461
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )(千円)	198,136	8,461
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,809	7,194
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	-	1円17銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(千株)	-	30
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(連結子会社の固定資産の譲渡)

当社連結子会社であるTHAI FUJI SEIKI CO., Ltd.は平成25年10月15日の取締役会決議に基づき、下記固定資産の譲渡契約を締結いたしました。

1. 譲渡の理由

当社グループの経営資源の効率的な活用及び財務体質の強化を図るため、平成23年10月の洪水により被災した当社連結子会社であるTHAI FUJI SEIKI CO., Ltd.のタイ中部アユタヤ県ハイテック工業団地内の工場を譲渡することいたしました。

2. 譲渡資産の概要

資産の内容及び所在地	譲渡価額	帳簿価額	現況
・土地 14,400㎡(面積) ・建物 4,557㎡(延床面積) ・住所 139 Moo1, Hi-Tech Industrial Estate Sai Asia Road, T. Bangpa-In, Ayutthaya, Thailand	56百万バーツ	40百万バーツ	遊休工場

3. 譲渡先の概要

譲渡先につきましては、譲渡先との取り決めにより開示は控えさせていただきます。なお、譲渡先と当社との間には、資本的関係、人的関係及び取引関係のいずれも該当事項はありません。また、譲渡先は当社の関連当事者には該当いたしません。

4. 譲渡の時期

平成25年12月27日(予定)

5. 損益に与える影響について

当該固定資産の譲渡により、平成26年12月期連結会計年度(THAI FUJI SEIKI CO., Ltd.は9月決算であるため平成25年12月期連結会計年度には影響いたしません)において、譲渡費用等を差引き特別利益に約38百万円を計上する見込みであります。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月12日

不二精機株式会社

取締役会 御中

仰星監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 高田 篤 印

業務執行社員 公認会計士 里見 優 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている不二精機株式会社の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、不二精機株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。